



CYCLOPS LENS

THE DATE MAGNIFIED

多くのオイスターモデルに装備され、日付表示を拡大するサイクロップレンズは、

1950年代初期にロレックスが発明しました。日付を読み取りやすくする
この画期的な発明は、今ではブランドの代名詞ともいえる特徴となりました。

1950 年代の初めにロレックスが特許を取得したサイクロップレンズは、ギリシャ神話に登場する一つ目の巨人の名前から取られています。サイクロップレンズは、1953 年に初めてデイトジャストモデルに採用されました。ダイアルの小窓で日付を拡大させることで日付の読み取りが容易になりました。

A ROLEX EXCLUSIVITY

1955 年、この発明により、瞬く間に成功を収めたロレックスは、競合他社に対して警告する必要性を感じました。「全時計メーカーに告ぐ：特別な形の拡大レンズを備えた時計のクリスタルはスイスとそれ以外の国において、ロレックスが独占的に所有するものである。いかなる模造品に対しても、ロレックスは法的な処置を取ることも辞さない。」これが、当時のマスコミに発表された通知でした。

デイトジャストに続いて、1955 年と 1956 年に発表された GMT マスターとデイデイトに、このサイクロップレンズが採用されました。特徴的なドーム型のサイクロップレンズは、重要なデザインの要素にもなりました。その後、技術的な理由で搭載されていないダイバーズウォッチのロレックス ディープシーを除き、オイスター コレクションのすべての日付表示付きモデルにまで採用が拡大されました。

FROM PLEXIGLAS TO SAPPHIRE

サイクロップレンズが最初に登場した時、レンズとクリスタルは一体成型のプレキシガラス製でした。ロレックスはその後 1970 年代から、耐傷性を備える新素材、サファイアクリスタルを採用するようになりました。それに伴い、サイクロップレンズも進化しました。現在では日付の視認性を高めるための二重反射防止コーティングを施したサイクロップレンズがクリスタルに接着されています。

今日、サイクロップレンズはこれまで以上にオイスター コレクションのデザインと切り離せない存在となっています。サイクロップレンズは常に進化を続け、ブランドが着用者の快適さを追求する証となっています。